

【小学部】

授業を見合う会の記録

1 単元における個人目標

児童	観点	個人目標	国語科の段階・目標・内容
OS 3年 (男)	知・技	物語に登場する動物の絵を見て、動物と鳴き声を結び付けたり、カタカナで書いたりすることができる。	小1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(ウ) [思判表]Bア
	思判表	「これ なあんだ」の問い掛けに応じて、自分で正解を考え、文字カードや手話で伝えることができる。	
	学・人	自分の好きなものや嫌いなものを考え、気持ちに合わせてカードを振り分ける。	

2 授業実践

実施日：令和5年10月18日(水)2校時	授業者	山岡 野花
教科・単元名：【国語】「なまえ いろいろなあんだ」	対象児童	O S
<p>★ 本時の目標</p> <p>・「ブレーメンのおんがくたい」の物語に登場する動物の名前や鳴き声などを手話や発声、カタカナで書いて表す。</p> <p>★ 本時のめあて</p> <p>・○○○○を がんばる または たのしむ</p> <p>本児が学習予定から選択する。 予想されるめあて・・・ブレーメンのおんがくたい を たのしむ</p> <p>★ 本時の「具体的に考える場面の設定と工夫」</p> <p>・発語がない本児が自分の考えや思いを表現できるように、選択して書く活動や文字カードや気持ちカード(好き・嫌い・楽しい・頑張る)、手話など様々な表現ができる場面を設定する。</p> <p>・カタカナの正しい形や書き順を確認できるように、近くにカタカナ表を掲示しておく。</p> <p>・同じ大きさの文字が書けるように、用紙に○印で枠を書く。</p> <p>★ 本時の「めあてとまとめの工夫」</p> <p>・めあては、学習予定の中から本児が選び、自分で書くことでやるのが分かり学習に向かえるようにする。</p> <p>・学習の前には、本児と一緒に学習予定を組み立てることで、見通しをもって学習に向かえるようする。</p> <p>・学習内容が大きく3つに分かれているため、最後に全てのまとめをするのは難しいことが考えられるためその都度、評価をしてまとめとする。</p> <p>まとめ</p> <p>○ブレーメンのおんがくたい：動物の鳴き声を正しくカタカナで書き分ける。</p> <p>○なまえ いろいろなあんだ：問いに対して、文字カードを正しく選んだり、手話で表現したりする。</p> <p>○こんだてをかこう：○印の中に献立を正しく書き写す。</p>		

3 授業評価

	成 果	課 題 ・ 改善案
具体的に考える場面の設定と工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・手話や身振り、発声等により、コミュニケーション手段の獲得につながっていた。 ・選択したり、手話や発声で表現したりできるようなやり取りが十分にあった。 ・絵本、カタカナ表、イラストなど多くの視覚情報を本児が活動中に有効に使用できていた。 ・本児が興味関心をもち、見通しをもって落ち着いて学習に取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活(教科、場所、友達、教師の名前)や家庭生活で使う言葉、気持ちの手話を題材化し、周囲と共有していく。 ・「好き・嫌い」は食べ物、生き物、勉強などで分けることで仲間分けの学習にもつながる。 ・カタカナ表や手話など、本児の気持ちを伝えたり、課題解決のツールとして日常生活につなげていく。
めあてとまとめの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で学習カードを並べたり、めあてを自分で決めて記入したりすることで、やることが分かり、学習に向かっていた。 ・学習の流れを一定にして繰り返していることで本児の集中できる時間で、それぞれの課題を即時評価できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばる」「たのしむ」の評価に難しさを感じるため、分かりやすい評価につながるように具体的なめあてを設定する。 ・その都度、3つの学習を評価できるように、各学習内容のはじめに「○からはみ出さないように書こう」などと頑張ることを具体的に確認する。
<p>★ 授業を見合う会のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児のコミュニケーションの軸となる手話を獲得し、定着させていくために国語の学習に加え、日常生活で積極的に使用していく必要がある。また、家庭や周囲との共有化の工夫が必要。 ・教師と1対1での学習のため、獲得した手話を周囲と共有化して他の学習場面でも生かせるようにしたり、読み聞かせの発表を友達に聞いてもらい、他者評価や賞賛につなげられる場面を設定したりする。 		
参観者	小学部職員、石郷岡、落合	

【中学部】

授業を見合う会の記録

1 単元における個人目標

生徒	観点	個人目標	国語科の段階・目標・内容
KR 1年 (男)	知・技	・聞き取った内容がどんな情報か知り、正確に内容を伝えたり、聞き取ったりする必要があることに気づく。	中1段階 (1) 目標ア (2) 内容 [知・技]イ (ア) [思判表]A ア
	思判表	・必要な情報を聞き取りメモに取り、さらに相手に分かるように伝える。	
	学・人	・朝の会等で必要な情報を聞き取り、行動に移すことができる。	
SM 1年 (女)	知・技	・聞き取った内容がどんな情報か知り、正確に内容を聞き取る必要があることに気づく。	中1段階 (1) 目標ア (2) 内容 [知・技]イ (ア) [思判表]A ア
	思判表	・必要な情報を聞き取り、正確にメモを取る。	
	学・人	・朝の会等で必要な情報を聞き取り、行動に移すことができる。	

2 授業実践

実施日：令和5年11月30日（水）2校時	授業者	大塚 昌和
教科・単元：【国語】「メモを取ろう」	対象生徒	KR、SM
<p>★ 本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を正確に相手に伝えたり、聞き取ってメモに取ったりする。 <p>本時のめあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷子になった子の特徴を正確に伝える。 ・必要な情報を正確に聞き取りメモに取る。 		
<p>★ 本時の「具体的に考える場面の設定と工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える情報、聞き取る情報を整理して考えることができるように、3ヒントかるたを初めに行う。 ・授業に気持ちがより向かうことが出来るように、迷子になる子どもの親になる架空の設定を行う。 		
<p>★ 本時の「めあてとまとめの工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確に相手に伝わったのか分かるように、タブレットの「ボイスメモ」を振り返り等で使用する。 ・相手に伝える、聞き取る場合にどんな点に気をつけると良いのか質問したり、書かせたりする。 		

3 授業評価

	成 果	課 題 ・ 改善案
具体的に考える場面の設定と工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取る活動は自立活動の視点でも大事。 ・模擬朝の会は日生に結び付いていて、メモを取ることができていた。 ・活動内容がシンプルで、生徒の興味・関心のあることを取り入れていた。 ・ボイスメモの活用は良かった。 ・Tのかるたの時のリアクションは子供のやる気を引きつける関わりで良かった。 ・3ヒントかるたの導入は、意欲的になり、聞く意識がもてた。 ・聞くことに重点を置いた授業として、模擬朝の会、迷子のアナウンスは意欲を引き出せていた。 ・Rさんのペースになりそうなときに、授業に戻る、考えるヒントの言葉掛けが要所であった。 ・録音したものを後から聞く場面があったが、これにより自分の聞き取りに自信をもったり、大切なところを再確認したりすることにつながったりしていた。 ・「ゆっくり話してください」など、教師に聞きやすい方法を求めている。 ・朝の会での聞き取る要点を聞き出す言葉掛け、「先生にもう一回聞いて確認する」など生徒の考えを促す言葉掛けをしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次は生活に関することや友達のことなど、学校や社会生活に関することに広められると知識として生きていく。 ・メモを取るというよりは、話の内容を聞き取るイメージだった。「話の要点を聞き取ろう」の方がしっくりくる。 ・メモを取ることが今一番必要なことなのかどうか検討が必要である。 ・教師の補助が入ったプリントから空欄のメモ帳へステップアップして難易度を高めていく。 ・正確にメモを取る方法をロールプレイを通して学習できると良い。 ・帰りの会の連絡や委員会での聞き取りなど、朝の会以外でも学校生活に関係のある内容の聞き取りを取り入れる。 ・朝の会の設定で、メモを取る前にポイントを確認しておくが良い。
めあてとまとめの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の予定、目当てがシンプルで見通しを持ちやすい。 ・シンプルでわかりやすい伝え方、話を聞くことの大切さにつながる発問、丁寧な振り返りとまとめであった。 ・メモは情報を得るために大切な手段だということを生徒が自覚しているからこそめあてだと思った。 ・ ・それぞれの場面によって要点が変わることを生徒から引き出すための質問が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人の学習になった時に学びの重ね合いが難しいと思う。 ・Rさんの聞く、話す態度が良くなっていた。それを本人にどう実感させていくのかが重要である。 ・プリントは穴埋めになっていた。その箇所以外は聞かなくても良い状況であった。 ・興味・関心の幅が広げられるよう、自分で大事なポイントを聞き取るようなめあてに発展できると良い。 ・実践的なメモの取り方にめあてを焦点化した授業展開にするとよかった。 ・授業のおさえたいところを明確にして定着を図ってほしい。 ・国語なので縦書きの板書や、助詞を使った表記になると良い。
<p>★ 授業を見合う会のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な学習にするためには、実態把握が大切である。 ・活動をシンプルにすることで、まとめが焦点化される。 ・他教科や自立活動の視点を取り入れ、より実践的、発展的なメモの活用につなげていきたい。 		
参観者	栗田、高橋齊、深川、田中、泉、熊谷、水平	

【高等部】

授業を見合う会の記録

1 単元における個人目標

生徒	観点	個人目標	国語科の段階・目標・内容
TY 2年 (男)	知・技	・2, 3 語文の指示が分かり、サインやカードを使用して、自分から要求したり、お願いしたりする。	小1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア (ア) [思判表]A ア C アイ
	思判表	・身振り手振り、指さしなどをして相手に伝えようとする。 ・絵 (写真) や音声などを手がかりに、文字と絵 (写真) を一致させようとする。	
	学・人	・自分から知らない物の名前に関心をもち、名前を知ろうとする。	

2 授業実践

実施日：令和5年12月8日（金）2校時	授業者	小玉 智彦
教科：【国語】「集めよう2 ～物の名前～」	対象生徒	TY
<p>★ 本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人に自分から依頼する。 ・名前の知らない物の絵 (写真) と名前が分かり、マッチングする。 <p>★ 本時のめあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵 (写真) の名前を聞いてみよう。 ・録音した声を手がかりに、絵 (写真) と名前カードを揃えてみよう。 		
<p>★ 本時の「具体的に考える場面の設定と工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発語がない分、本生徒が自分から絵 (写真) の名前を質問できる (録音させてもらえる) ように、お願いカードを準備する。 ・音声の録音には、ICレコーダーを使用し、自分で操作できるように、録音ボタンには赤シール、停止ボタンには青シールを貼り、違いが分かるようにする。 ・絵 (写真) と名前カードをマッチングできるように、iPadのアプリを使用し、物の絵 (写真) に音声を添付し、名前が分からないときの助けになるようにする。 		
<p>★ 本時の「めあてとまとめの工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の集中力が持続できるよう、学習内容を大きく3つに分けて授業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 1 「思い出のふりかえり」 2 「集めよう (物の名前)」 3 「リラックスタイム」 ・授業の始めに、一緒に学習活動を確認していくことで、見通しをもって学習に向かえるようにする。 ・本時の学習については、始めに、前時に学習して録音した音声を使用して作成した問題を行い、どのくらい覚えているのかを確認した後に、本時の物の名前を集める活動を行うようにする。 		

3 授業評価

	成 果	課 題 ・ 改善案
具体的に考える場面の設定と工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント、カレンダー、カードなど様々な教材を使いながらも、その教材で何をやるのか分かっていて取り組んでいた。「何をやるのか分かる」ことは、「考えて取り組む」ことにつながるベースだと感じる。 ・「実習の振り返り」では、写真を手がかりに、丁寧に問い掛けを行い、手を振る、顔を振る、ジェスチャー、発声など、答えを引き出していた。 ・「お願いカード」があることで、自分から依頼できていた。 ・身近なものの名前を覚えることは日常生活とつながっていくと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後を見据え、1年間で何を定着させたいのか適切な実態把握に基づいて焦点化する必要がある、「聞く（指示理解）」「話す（手話表現、選択肢の選択等）」にしばって学習を展開する。 ・生活の中で学んだ絵カードを活用する工夫をする。いざという時は、身振りの方が楽の時もあるので、単語や感想のおさえでは、手話の身振りも付けていく。（先生、友達のネームサインなど） ・TYさんにとって、必要な言葉、知ってほしい言葉の中から何を選んで取り上げるのか精選する。他の学習や生活との関連を図ることにつながる ・言葉のみでなく、「つかめた」「楽しかった」などは、表情のイラストなども使い、選択するような方法もある。（表情とことばの概念が対応しているか確認する） ・iPadの操作はもっと大きなパーツで使用する。不器用さがある人にはカード等でいろんな指を動かすことも必要である。 ・ロイロノートの活用の仕方について、「●●を探せ」ゲームなど、相手の顔に（電子ペン）で丸をしましょう。」などはできるでしょうか。ペンの色を指定しても面白い。日付カードを毎回選んでいく方法もある。
めあてとまとめの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間のメニューを一定にし、繰り返し取り組むことで、何をやるのか。何を求められているのか分かっていた。 ・集中力、興味・関心に合わせ、パターン化して学習の流れを組んでいる。 ・短く区切って行う評価はよい。 ・最初に学習の予定を確認し、「リラックスタイム」の内容を自分で決めることで、見通しをもって活動できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力に課題のある生徒のため、目標を焦点化するために前半2つの課題に絞るとよい。 ・何が確実に分かったか、身に付いたのか、評価する方法をより明確にして、授業のまとめに取り入れたり、他の学習で成果が活かされたりできるように、具体化する。
<p>★ 授業を見合う会のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心のある物、また、高等部2年生の段階として卒業後の社会生活につなげていけるものを取り入れていくことが大切である。 ・学習したことが卒業後の社会生活につながるようにしていくためにも、本人だけでなく、保護者、担任とニーズをしっかりと共通理解した上で取り組んでいくことが大事である。 		
参観者	佐々木、山岡、深川、落合、櫻田、樋渡、能登谷	